

山ごころ

大滝せせらぎ

里ごころ

はたおと秩父

秩父市

地域おこし協力隊

No. 36 (11月号)



ナカド



グナ



ロモミジ



ツツジ



オオモミジ



ヤモミジ

# はじめまして！ 谷口です！

たにぐらたかし

このたび、大滝に参りました。谷口孝史と申します。

こちらに来てからひとつき経ちますが、今はまだまだ、顔と覚えてもらうためにあつちらつちらつちら。

(それはそうと来てすぐ飛心込みで参加させて頂いたバスツアーとても楽しかったです！！)

今回は自己紹介で失礼します。

私が住んでいたのは埼玉国木川口市桜町。旧鳩ヶ谷というところ、知っていらっしゃるでしょうか？

元々母の実家に近く、小さいころ都内から引越してきました。桜葉木のモトイを町で。

鋳物や釣り竿が有名です。

私は小さいころから喘息で、

学校も休みがちでした。

そして、ここからが大滝との関わりなのじすが

(株父)



中学生のころ友人3人に誘われて初めて山に登りました。四重畳室に二もりが落ちた私は初め断っていたのですが、強引さには負けてしまひ...

その、初登山の山こそ、熊倉山だったのです。皆さん知ってらっしゃるかも知れませんが、高度はあまりないですがあまり整備されていなく、後でスキマと遭難者多し。

実際、キャンプ道具を担いだまま登った私は、下山中に斜面を転げ落ちて木に引っかかるという、ナカナカの経験をしました(今では笑い話ですが笑)命から下り下山し、辿り着いた宿は...

3畳程の小屋。11月の初め、寒さをしのぐために4人で寝ました。(スキから体がプルプル強...) その後もその4人で二十近くの山を登り、つい先日10月25日にも一緒に中津川までいったんです...

そんなこんなで、ここ株父は私にとって「自分の殻を突き破って成長した場所」なのです。それからもう20年近く経ちます。まだまだ未熟な私ですが、ここからこの思い出の地で、もっと大きくなりたい、と思っけていきます。

長々とした自己紹介でしたが、今後とも、宜しくお願ひします！！

# 秋の銘仙館まつりがありました。

Chichibu Meisen

Collection 2015

秋の銘仙と華

10月24・25日に秋の銘仙館まつりがありました。

今年も秋の銘仙館まつりがありました。今年も秋の銘仙館まつりがありました。今年も秋の銘仙館まつりがありました。

の女子生徒さんに秋の銘仙を着てもらい、秋の銘仙まつりを行いました。また、横瀬町出身の笹久保伸さんによる機織り歌コンサートを開催しました。

里ごころ

はたおと秋父

織りながら歌った歌は、現代の販売される歌とは違い、心強く、感動させられました。途中一緒に歌わせてもらい、貴重な経験となりました。

さらに今年も「Magentic Poie」さんに協力してもらい、座繰り実演が行われ、あつた瞬間をお客様にご覧いただきました。

今年も2日間内容盛り沢山のイベントとなりました！ご協力いただいた皆様ありがとうございました！

日々の活動はFacebookページ「秩父市地域おこし協力隊」で更新中です！

秩父銘仙のファッションショーが11月22日(日)に開催されます！全て現代に織られた銘仙で彩るファッションショーは、秩父銘仙の皆様のイメージを一新します！もうなつかしいなんて言わせません！！秩父鉄道31列車や、ちちぶ銘仙館とのコラボ企画もある銘仙づくしの一日です！

詳細はちちぶ銘仙館HPにて！



## お問い合わせ

秩父市役所 商工課 地域おこし協力隊  
佐俣 菜津子

TEL 049412515208

MAIL SYOKO@city.chichibu.lg.jp

# 秩父歳時記

秩父はお祭の多い町！ その一部をご紹介します！

## 大滝紅葉まつり

今年は  
10月23日～11月23日

秋になると大滝の木々が色づき、とても美しく染まります。パワースポット（昔はカッポルで行くと別れるとウワサの神社だったようですが：今は縁結びの木もあります！）三峯神社をメイン会場に、11月8日には様々なイベントが行われます。地域おこし協力隊も例年と同じく神領民家でカフェを開店です！

ちなみに大滝は山間地域のため紅葉は秩父地域では早く、秩父市街地から秩父郡長瀬町へと紅葉シーズンに移っていきます。



今年の赤は限定色。

## 11月

### ちちぶ荒川新そばまつり

今年は  
11月15日(日)



「ちちぶ花見の里」というそば畑を一望できる場所で行われるイベントで、新そばを特別価格でお楽しみいただけます！

### 観光で来ると秩父リそばですが…

秩父に観光で来ると、お昼はおそば！という方も多いのですが、実は秩父の人たちはそばよりうどんとよく聞きます。（佐俣調べ）それは秩父に山林が多く、稲作ではなく、麦中心の食生活だったからです。うどんぶち（うどん作り）ができないと嫁に行けないとまで言われていたそうです。そのため郷土食には野菜を炊めた汁にうどんを直接入れて煮込む「おつきりこみ」や、ゆでたお鍋からそのまま食べる「すりあげうどん」などがあります。一方そばは祭日や来客用でふるまわれるごちそうで、お正月の三が日におそばを供えて食べる「朝そば」の習わしがある地域もあります。秩父の人々が観光客におそばを出すのはおもてなしの心から来るのかもしれないね。